

## 「第1回 土屋文明記念全国短歌大会」入賞作品決定

— 9月20日に表彰式を開催 —

土屋文明の業績を顕彰するとともに、全国のみなさまに短歌に親しんでいただくことを目的として、本年4～5月に標記短歌大会の作品を募集いたしました。

このたび入賞作品が選出されましたので、以下のとおり表彰式を開催いたします。

### 【表彰式概要】

- 1 日 時** 9月20日(日) 13:15～(予定)  
※開館 30 周年記念式典(13 時開始)終了後に開催
- 2 会 場** 土屋文明記念文学館 2階研修室
- 3 受 賞 者** 一般部門 6 名  
学生部門(高校生以下) 5 名
- 4 表彰式概要** 賞状授与、選者講評など



土屋文明

### 【参考情報／短歌大会概要】

- 1 募 集 期 間** 令和8年4月1日～5月31日
- 2 選者(歌人)** 永田和宏、小島ゆかり、大辻隆弘、東直子、佐佐木頼綱
- 3 歌 題** 題詠「文」または自由詠(学生部門は題詠のみ)
- 4 応 募 状 況** 総 投 稿 数 3,789首  
入賞作品数 11 首

※入賞作品の選考結果は【別紙】のとおり

記念式典、表彰式はメディア取材が可能です。希望される場合は事前にご連絡ください。

## 【別紙】第1回土屋文明記念全国短歌大会 入賞作品選考結果

### 1 投稿数

|       | 一般部門   | 学生部門(高校生以下) | 合 計     |
|-------|--------|-------------|---------|
| 投 稿 数 | 2,261首 | 1,528 首     | 3,789 首 |
| 入賞作品数 | 6首     | 5首          | 11首     |

### 2 入賞作品

#### 【一般部門】

##### ●最優秀賞(土屋文明賞)

テル子さんはどんな湯呑みを使ひしか文明の部屋に青きがひとつ

作者:清水<sup>しみず</sup> 静子<sup>しずこ</sup>(群馬県)

##### ●優秀賞

蚕の匂ひ纏へる体そつと寄せ額の熱をはかる母の手

作者:鬼形<sup>おにがた</sup> 輝雄<sup>てるお</sup>(群馬県)

父と母すこし離れて笑む写真出合いの一枚と最後の一枚

作者:近藤<sup>こんどう</sup> 千壽<sup>ちず</sup>(神奈川県)

##### ●選者賞

(永田和宏 選)

「群馬って何にもなくね?」と言いながら群馬の話ばかりする会

作者:(筆名)藤田<sup>ふじた</sup> 祥<sup>しやう</sup>(群馬県)

(小島ゆかり 選)

福耳と母が振りむき自慢するもうすぐ焼かれる父にふれつつ

作者:佐々木<sup>ささき</sup> 泰三<sup>たいぞう</sup>(宮崎県)

(大辻隆弘 選)

文脈を手放してゆくくちびるにふたりは春の獣になった

作者:(筆名)小松<sup>こまつ</sup> 百合華<sup>ゆりか</sup>(神奈川県)

※他に入選81首

【学生部門】(高校生以下)

●最優秀賞

休むって短い文を打つだけがこんなに重い部活の朝に

作者:吉澤 光凛<sup>よしざわ こうりん</sup>(群馬県) 高崎高校2年

●優秀賞

文旦をひとつひとつと剥きながら誰かの春を摘んでる気がした

作者:志賀 壮太<sup>しが そうた</sup>(宮城県) 気仙沼高校2年

教科書のそんなわけない英文をいつ使うのと二人で笑う

作者:前田 匠<sup>まえだ たくみ</sup>(群馬県) 高崎高校3年

●選者賞

(東直子 選)

文字知らぬ小<sup>ち</sup>さき手型の吾が葉書祖父は文箱の底に守れり

作者:細野 裕菜<sup>ほその ゆうな</sup>(東京都) 共立女子高校3年

(佐佐木頼綱 選)

文庫本のしおりを外す初夏の風利根川は深い翡翠色して

作者:荻原 言羽<sup>おぎはら こと は</sup>(群馬県) 前橋市立第一中学校3年

※他に入選 52 首

入賞作品・入選作品は当館HPで公開 <https://bungaku.pref.gunma.jp/>

※入賞作品・入選作品は詠草集に掲載し、一般部門の応募者全員に送付。当館ミュージアムショップで販売予定